

八王子消化器病院ニュース

第44号

医療法人財団 中山会

八王子消化器病院

消化器病専門医療機関・東京女子医大関連病院

日本医療機能評価機構認定病院

〒192-0903 東京都八王子市万町 177-3

TEL: 042-626-5111

www.八王子消化器病院.com

制作 (株) 教育広報社



おおるり

HACHIOJI DIGESTIVE DISEASE HOSPITAL NEWS



病院機能評価

八王子消化器病院 病院長 原田 信比古

平成26年度も後半に入りました。今年の夏は台風・豪雨・火山の噴火に感染症と人の力では抗しきれない災害が続き、自然の脅威を見せつけられた夏でした。世界の情勢もパレスチナ、ウクライナ、スコットランドに香港と次々と緊迫した情勢が生まれ、混沌としています。特にイスラム国とエボラ出血熱の拡大は全く異質の問題でありながら、何故か重なって見えてきて、これまでの常識では対処できない異次元の世界に入ったような気がします。

◆ 当院はこの夏、「日本医療機能評価機構」の審査を受けました。同機構は、病院が患者様に対し組織的な医療を提供するための基本的な活動が適切に行われているかどうかを、中立・公平な立場から評価する第三者機関です。患者様が病院を選ぶ時、その施設の医療活動が適切に行われているかどうかを判断するのは非常に難しく、地域の評判やインターネットの情報などに拠らざるを得ないのが現状です。そこで、中立な立場から病院全般の機能を評価し、その選択の一助とするのがこの医療機能評価の目的です。平成9年から審査を開始して平成25年までに全国約8500病院のうち27%

にあたる2297病院が認定病院としての評価を受けています。当院もこれまで平成16年と平成21年に受審して、いずれも認定され、今回は3回目の受審となりました。

◆ 審査される内容は、患者様の意思を尊重した医療や個人情報管理がなされているかなどを評価する「I. 患者中心の医療の推進」について、全般的な医療レベルや安全管理、感染対策などを評価する「II. 良質な医療の実践」について、そして職員の教育・研修や労務管理、施設・設備管理などを審査する「III. 理念達成に向けた組織運営」などです。病院内にはさまざまな規定やマニュアルがありますが、日頃から整備しているつもりでも、改めて見直すと不備や改訂を要する箇所がみつきり、この夏、受審の準備作業に多くの時間を費やしました。そして先日、審査結果の通知があり、全84の評価項目中、標準以下の評価は一項目もなく、全ての項目において標準以上の評価を得て、今回も同機構の認定を得ることが出来ました。

◆ 受審への準備作業そのものが病院組織改善へのきっかけとなり、職員の意識改革にもつながったのではないかと思います。医療機能評価は車に譬えれば、いわば車検のようなものです。車体の構造はしっかりと

りしているか、アクセルやブレーキは正常に作動するかなど、病院としての基本構造と機能が整備されているかどうかを判断し、それらが適切に運用されているかどうかを評価するものです。病院が通常の企業や工場と同じであればISO取得などと同じくそこまでの評価で良いのですが、病院は患者様を対象としています。どんなに性能のよい車でも、乗り方ひとつで評価は大きく分かります。病院の真価は、そこで出会う患者様との間に真の信頼関係が築けているか、患者様が真に納得され安心して治療を受けて頂いているかにかかっています。しかし、それを審査する第三者機関はありません。それを評価するのは患者様一人ひとりであり、皆様から寄せられる「患者様の声」です。毎月多数のご指摘や忠告、ときにはお褒めの言葉もいただきますが、すべてを真摯に受け止め、より良い病院にしていきたいと思っています。そのために当院では1年を通して患者様にアンケートを実施し評価をいただくとともに、「患者様の声」を全職員に伝え、毎月の幹部職員会議で討議し、その改善状況を確認しています。患者様と医療者の関係は数値化したり、他院と比較したりできない中、このような取り組みがお互いの信頼関係を築くうえで不可欠であると考えます。

◆ 今回の受審結果を踏まえてこれからも消化器疾患の専門病院として、医療水準の維持向上や医療安全管理はもとより、地域の皆様から真の信頼を頂けるよう努力して参ります。

もっと知りたい!

身体 治療 のコト

病氣

鼠径ヘルニアについて

八王子消化器病院 消化器外科 松尾 夏来

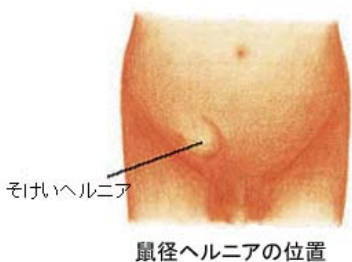
○鼠径ヘルニアとは?

ヘルニアとはラテン語で「飛び出る」という意味があり、体の臓器の一部が本来あるべき場所から「飛び出た」状態を言います。ヘルニアの中で比較的多いものとして、鼠径ヘルニア以外に腰痛の原因となる椎間板ヘルニアや出べそと言われている臍ヘルニアなどが挙げられます。では、ここで取り上げる鼠径ヘルニアとはどのような病気なのでしょう?

鼠径部というのは足の付け根の部分です。神経や血管の通り道となる筋肉の鞘(これを鼠径管といいます)があり、その部分は非常に薄くなっているため、腹部臓器が「飛び出し」やすい状態になっています。

「飛び出す」臓器は、ヘルニア嚢(飛び出たり戻ったりすることで袋状に伸びたお腹の膜)に覆われて、皮膚の下に膨らみとして触れることができず。

この足の付け根にある鼠径部の筋膜の



鼠径ヘルニアについて

八王子消化器病院 消化器外科 松尾 夏来

間から飛び出るものを鼠径ヘルニアと言います。腸が飛び出ることがありますが、一般的に「脱腸」と呼ばれています。その他に脂肪、大網、精索(男性)、子宮円策・卵巣・卵管(女性)などが飛び出ることがあります。

○鼠径ヘルニアによる症状

足の付け根の膨らみが左右どちらか一方、または両方に認められることがあります。膨らみは、ピンポン玉から握りこぶしぐらいの大きさになることがあります。飛び出たり戻ったりを繰り返します。立つたり息んだりすると飛び出て、仰向けに寝ると戻ったりします。

飛び出たり戻ったりを繰り返すと周囲の組織が浮腫んだり炎症を起こしたりして、痛みが出ることがあります。その他の症状として下腹部の違和感、つっぱり感、便秘などが挙げられます。

○鼠径ヘルニアの原因

鼠径ヘルニアは特別な病気ではなく、乳幼児、成人、高齢者と様々な年代の人に起こりますが、成人の場合は40代以上の男性のリスクが高いといわれています。

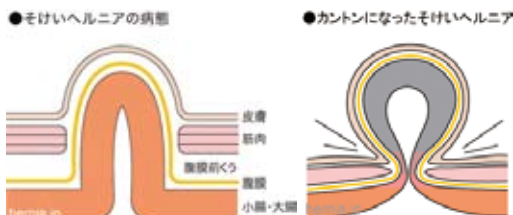
①乳幼児↓先天的なものがほとんどです。

②成人↓加齢、肥満、腹圧がかかるよう

な生活習慣や他の病気の合併、妊娠・出産などが関与しています。具体的には、日常的に重い物を持つ仕事・立ち仕事、頑固な便秘で息むこと、ウエイトリフティングなど重いものを持ち上げるスポーツなどが影響することがあります。また、前立腺肥大やその手術後、咳漱の多い呼吸器の病気なども原因となることがあります。

○ヘルニア嵌頓(カントン)とは?

「飛び出るもの」が小さいものであれば経過観察は可能ですが、「嵌頓」に注意しなければなりません。「嵌頓」とは飛び出たものが戻らなくなってしまうことです。ヘルニアが飛び出たり戻ったりを繰り返していると、周りの組織の炎症や浮腫みが強くなり、袋の口が閉まるように戻らなくなってしまうことがあります。ヘルニアが戻らない状態が長時間持続すると、血流障害が起こり、組織が壊死し、命にかかわるような重症になることがあります。その場合は緊急手術が必要になります。



○治療方法とその適応

鼠径ヘルニアに対する薬による治療法はありません。「嵌頓」をきたさず痛みなどの症状がなければ、経過観察をする

こともありますが、その際に悪化を防ぐためにヘルニアバンドを用いることがあります。根治的な治療法としては手術が挙げられます。手術を行うかどうかは、①痛みの程度 ②脱出の頻度 ③脱出の大きさなどで決定します。手術方法は、筋膜を縫い縮める単純閉鎖術、医療用のメッシュシートで補強するメッシュ

法、腹部に穴をあけてカメラで見ながら行う腹腔鏡を用いた手術など様々な術式があります。麻酔方法としては、背中から針をさして腰から下半身のみに麻酔を効かせる腰椎麻酔が一般的ですが、創部のみに麻酔をする局所麻酔や、眠ったまま喉に管を入れて人工呼吸器を使う全身麻酔などがあります。最近メディアでよく取り上げられる腹腔鏡手術を

行う場合は、全身麻酔を行います。日帰り手術を行う施設もありますが、当院では安全性を考慮し入院による手術を行っています。



医療用のメッシュシート

鼠径ヘルニアに関して、治療を含めご相談なさりたい方は外科外来をお気軽に受診してください。

羽生先生の思い出

町田市在住

中村 享子さん



44

羽生先生といえば、独得の大きなお声、そして威厳があり乍ら何となく優しく温かいお顔が浮かび、いろいろの事が走馬燈の様に頭をめぐるります。

私が羽生先生に初めてお目にかかったのは平成三年、六十五才の時(現在八十八才)で、東京女子医大の成人医学センターの横山先生のご紹介により、大腸癌と胆のう癌の手術をして頂いたのがはじまりです。先生は、入院中に時々病室に來られては「どうですか」と声をかけて下さり、都度、安心と元気を頂きました。この時、私は癌である事を知らされていませんでしたので気楽に思っていたことが結果として良かったと思います。手術後に先生が夫に「完全に取ったから言うな」と言われた由、私はその後も、乳癌、肺癌と思いましたが、大腸がんを克服できた事で何とか乗りこえられ現在に至っております。

先生が女子医大を定年退職され、浜町センタービルクリニックに移られた後は、浜町でお世話になることになりました。この頃から夫も一緒にお世話になりました。女子医大の時は寸さびしく、お話をするのも遠慮する様な感じでしたが、浜町に移られてからは気楽にお話できる様になり、診療以外の世間話も加わりクリニックに行くのが楽しみになりました。

この頃から先生は書を始められ、ある時「一寸見てくれ」とのお声掛りをきっかけに所長室で「獅胆鷹目行以女手」の書作が始まりました。私が偉そうな事を申し上げるのは、はばかりでしたが、一寸した「コツ」とか、大切な筆使いの基本の事など申し上げたところ、見違えるほど良い書をお書きになりました。その時、私がおこがましくも見本を書いて差し上げましたが、私の書は唯きれいなだ

けで魅力なく、一方、先生の書はといえば活々と生きている作品がそこにありました。外科医の真髓を極められた先生にこそ出せる味だと思いました。

昔から「上手な書が必ずしも良い書ではない」というのは思っておりましたが、正にその通りで、先生の書には血が通っており、書というのには恐ろしいもので、その中に人柄と心根が必ず表わされます。例えば日展などに入選したいといった思っている書は、何か騒がしく、物欲しそうで、良い作品にはなりません。良い書を書くには、氣力を充実させ、雑念を払い、無心の境地で一心に書くことと初めて良い作品ができるという事を学びました。ところが先生はそれを見事に表現されました。技術は勿論大切ですが、どこがどうか言うのは二次である事を先生の作品を通して改めて確信致しました。

その後、私は住居の関係で浜町から八王子消化器病院に転院する事になりました。ここで先生は理事長をしていらつしやいました。診療にお伺いしているうちに、時々「理事長室に來てくれ」と仰られましたので、お部屋のある二階にお伺い致しました。先生は理事長室に書道々

具一式を揃えられて、研鑽を積まれていらつしやる様子でした。そうこうするうちに夫が病に倒れ、一年近く療養の末に亡くなりましたが、その間にもいろいろ悩みを聞いて頂き、アドバイスもして頂いて、氣分的に随分救われました。

その後、先生ご自身がお病気を再発されたのですが、それでも八王子で診療を続けられました。そして、「生きている限り診察する」と仰つていらつしやいました。ところが、腫瘍マーカーが増えた、減つたと一喜一憂なさつておられるのが、おいたわしい限りでした。

途中、小康を得られた時に、先生は日本橋医師会の展覧会に書を二点出展されました。そのお知らせを受け、早速作品を拝見させて頂きました。

その折に、お嬢様方やご親戚の方々他と一緒に「深川めしと天婦羅」を御馳走になりました。事は今でも忘れられません。

その後、また、ご病状が悪化され、お目にかかる機会もなく、時折、原田先生にご様子などをお聞きして頂きましたが、その間も只々御案じ申し上げておりました。女子医大病院に入院されてから、お見舞の機会を頂き、お目にかかれましてのがお目もじできた最後になりました。

二十年余りの長きにわたつて本当にお世話になり、いろいろ助けて頂いて幸いでございました。只々有難いことであつたと感謝致しております。

早いもので先生がお亡くなりになられ今年八月で満四年が過ぎられた由、心よりご冥福をお祈り申し上げます。

ありがとうございます。



理事長室にて 平成21年3月27日

栄養科のご紹介

栄養科 主任 草山 恵

近年、医療機関を取り巻く環境が厳しさを増す状況下において、経費削減を目的とした病院給食業務の外部委託化が進み、その割合は全国の病院の約7割に達するともいわれています。そのような状況の中で「食事は治療の重要な一環」であり、栄養科職員も「医療に携わる者としての高い意識が求められる」という考えの下に当院では栄養科業務の全てを直営にしております。現在、当科は責任担当医師の武雄顧問をはじめとして、管理栄養士7名、栄養士1名、調理師5名、調理補助員2名の合計16名のスタッフで業務を行っています。

直営給食の最大の強みは、状況に応じたきめ細かい対応ができることです。患者様毎の病状に合わせた治療食はもとより、栄養指導や配膳の際に「食」に関する様々な相談をお受けするなどして患者様の想いに寄り添えるよう常に心がけています。

その一環として、食事に対する患者様からの意見を伺い、献立などに活かしていくために嗜好調査を年5回程度実施しています。その中で最も多く寄せられるご意見は「味付け」に関することです。患者様が「美味しくない」と感じられた場合、食欲低下につながり、それが治療にも影響を及ぼすことが懸念されます。そのため当院では、患者様がご自宅で召し上がっておられた食事に出来るだけ近づけるように味付けに工夫を凝らし、味が単調に

ならないように料理にメリハリをつけるようにしています。そのうえで口に合わないという患者様に対しては、直接ご希望を伺い出来る限りの個人対応をして「如何に食べていたか」に努めています。

これらの味に対する取り組みに加えて、患者様に自宅で食事をしてもらえるような雰囲気を感じていただけるような献立内容や盛付方法、料理の温度、食器の選定などにも心を配っています。

ここで消化器疾患の専門病院として私たちが特に注力している取り組みについてご紹介させていただきます。

まず、ひとつ目として入院患者様やそのご家族の方を対象に毎月実施している「行事食」があります。20年以上前から始めた行事食も現在では他の病院でも行われるようになり、珍しいものではなくなりました。しかし「患者様に美味しく召し上がっていただき、早く元気になって欲しい」という食事に込められた当科職員の想いは、脈々と引き継がれています。そして、患者様から「楽しみにしていました」「最後の食事を家族と一緒に楽しむことができました」「最後の思い出になりました」などの言葉をいただきました。ただきまずと「病院食は味気ない」との世間の評価を変えていきたいという当初の目的を達成できたという喜びとともに重要な責任を担っていることを改めて痛感します。

取り組みのうちひとつは、「栄養指導」です。当院では入院患者様を中心に年間で約3,000件の栄養指導を行っています。



上/秋の行事食 下/栄養科スタッフ



いますが、特に今年度は「2度3度と繰り返す指導を受けられる患者様にも満足していただける栄養指導」を目標としています。患者様にわかりやすく、かつ日常の食生活においても取り入れていただけるように専門知識の向上に努め、説明方法の工夫、資料の充実はもとより接遇の更なる改善にもつなげて参ります。診察当日に栄養指導を希望される場合や食事に関するちょっとしたご質問にも入院・外来を問わず対応しておりますので、遠慮なく主治医にご相談ください。

「食べることは生きること」

私たちは「食」に携わる者として食べたたくとも食べられない悩みを持たれる一人ひとりの患者様の声に耳を傾け「どうしたら美味しく召し上がっていただけるか」をしつかりと胸に刻んで日々の業務に取り組んで参ります。

想うこと



チチロ 蟋蟀 (こおろぎ)、ルルルル 邯鄲 (かたん)、チンチン 鉦叩 (かねたたき)、ギースチョン 蝻 (きりぎりす)、ガチャガチャ 響虫 (くつわむし)、スイーツチョ 馬追 (うまおい)、リーンリーン 鈴虫、チンチロリ 松虫。皆様よく御存じの、秋を代表する虫達とその鳴き声です。外国人には雑音としか映らないこれらの音ですが、虫の音 (ね) として愛で親しみ、そ

して虫の声 (こえ) と捉える日本人の感性とその文化の素晴らしさを再認識させられます。

夏の暑さに奪われた体力と気力を虫達の涼しげな音色で回復・癒して、この秋を満喫することとしましょう。

あれ松虫が鳴いている ~ 秋の夜長を鳴き通す あゝおもしろい蟲のこえ

理事 久野久夫